

第 25 回 会長の時間 米山梅吉につきまして 2月2日

2月に入りましたが、依然としてインフルエンザが猛威を振るっております。また、今月中旬からは、花粉症のシーズンに入ります。今年は昨年比べて約3倍の飛散量が予測されていますので、花粉症の方は早めの治療を心がけて下さい。さて、先週はロータリーの創設者のポール・ハリスについてお話ししました。今週末の2月4日は、日本のロータリーの父と呼ばれる米山梅吉が誕生した日です。本日は、米山梅吉の生い立ちと功績についてお話をします。米山梅吉は、もちろん米山奨学事業の記念の称号で知られる方ですが、1968年2月4日（慶應4年）江戸（東京）の和田家の三男として生まれました。5歳の時に父親が他界したため、母親の郷里である静岡県三島に移住しました。14歳で旧制沼津中学に進学しましたが、その後上京し19歳で東京英和学校（青山学院の前身）に転入して、米人講師のもとで英語を学びました。20歳の時に米山家の養子となりましたが、彼は渡米し、オハイオ州のウエスレヤン大学やニューヨーク州のシラキュース大学などで約8年間、苦学の留学生を送りました。

帰国後は、文筆家を志しておりましたが、井上馨の紹介で三井銀行に入社して常務取締役となりました。その後、三井信託株式会社を創立して取締役社長に就任しました。1918年の渡米中、ダラスロータリークラブのロータリアンになっていた福島喜三次の紹介により彼はロータリークラブと出会いました。そして帰国後の1920年（大正9年）10月、米山梅吉は、日本初のロータリークラブである東京RCを設立し初代会長に就任しました。その時の幹事はその福島喜三次でした。そして、米山梅吉は、1924-26年度国際ロータリー（RI）のスペシャルコミッショナー、1926-27年度には、日本人初のRI理事になりました。さらに1928-31年度には、当時の第70地区のガバナーなどを歴任しています。

しかし、1940年9月11日に東京RCは、戦争のためRIから脱退し、水曜会と名を変えました。彼の晩年は財団法人三井報恩会の理事長として、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に貢献されましたが、1946年（昭和21年）4月28日静岡県長泉の地で他界しました。78歳の生涯でした。

彼の死後、1949年3月29日に東京RCは、RIへの復帰を果たしました。

ロータリー米山記念奨学会資料によりますと、1952年、東京RCは彼の功績を記念し、日本で学ぶ外国人留学生に対して支援を行う「米山奨学制度」を構想しました。それは、生前にアジアの留学生や国内の苦学生を対象として、無名で多額の援助を行っていた彼の遺志を偲んで生まれたものでした。この事業創設の背景として、平和を求める日本人の心を世界に理解してもらうには、アジ

ア地域から多くの留学生を迎え入れて信頼関係を築くことが重要で、これが、日本のロータリーのできる最もふさわしい国際奉仕事業の一つだと考えられます。それから60年余の歳月が流れましたが、民間外交として世界に平和の種子を蒔くという米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。特にアジア地域の平和の留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋となることを望みます。なお、2月のRI特別月間は、「平和と紛争予防・紛争解決」ですのでこの話を加えました。

結びに、米山梅吉が創設した東京RCすなわち日本のロータリークラブは、2020年の東京オリンピックの年に100周年を迎えます。是非、皆様と一緒にお祝いをしましょう。本日は、米山梅吉の生い立ちと彼の功績についてお話をしました。